

読み札	絵札	解説
<p>ま 幕岩の護り 原田の 神明宮</p>		<p>原田神明宮は沼田泰輝が永正16年(1519)小沢城より柳町幕岩の嶮に築城移転した際、大手門前に伊勢の外宮を勧請した。沼田台地における最古の神社である。旧暦10月15日神無月ながら例祭を執行するのは外宮を祀るためという。その夜「火祭」と称し境内で火を焚き子供の火遊びが許された。この火にあたると風邪をひかないという言い伝えがある。</p>
<p>み みことな彫刻 雨宝殿</p>		<p>雨宝殿は文政11年(1828)勝善寺住職慈豪が城内にあった愛宕社の再建を発願し建立、土岐家伝来の勝軍地蔵を祀ったといわれている。明治に至って勝善寺は東禅寺と改称。建物周囲の彫刻は精緻を極め、正面の額は土岐頼知の筆、内陣の壮麗な厨子、黒漆塗飾金具の豪華な格天井等がある。平成7年(1995)に西倉内町から下川田町へ解体移築された。</p> <p>勝軍地蔵雨宝殿、勝軍地蔵と厨子は昭和52年(1977)市指定重要文化財</p>
<p>む 高平書院と 五葉マツ 村宿の</p>		<p>高平の書院は、慶安2年(1649)沼田城主真田信政が新田開発・宿割等を行ったときに建てられ、その後は城主の沼田領内見回りや鷹狩りの際の休憩所として利用されたといわれており、現在その一部が残っている。また、その書院の庭木として、植樹されたと伝えられる五葉マツは、推定樹齢約400年、高さ約18.9m、根元周囲約6.7mでこの地方ではまれにみる巨樹で、樹勢も旺盛である。</p> <p>五葉マツは昭和44年(1969)県指定天然記念物。書院は同59年(1984)県指定重要文化財</p>
<p>め 自然の中を 関越道 恵まれた</p>		<p>昭和60年(1985)10月2日全線開通した関越自動車道は東京都練馬区から新潟県をつなぐ大動脈である。近くには河岸段丘を跨ぐ国内最大級の規模を誇るトラス橋の片品川橋、その南に関越自動車道の中で最も高い橋脚の永井川橋があり、北に向かえば谷川連峰を貫く関越トンネルがある。利根沼田の自然の中を通るこの道路は四季おりおりの変化に富んだ景観を満喫させている。</p>
<p>も 武士の悲しさ 海野塚</p>		<p>天正8年(1580)6月、真田昌幸は沼田城を手中にし、真田一族の海野能登守輝幸を沼田城二の丸城代に、輝幸の兄の幸光は岩櫃城代に据えた。この兄弟を妬む者の讒言を信じた昌幸は、弟の信尹に海野兄弟を討つよう命じた。まず幸光を討ち、沼田城に入った。輝幸は真田勢に追撃され、岡谷地内で嫡男幸貞と刺し違えて自刃した。父子をここに葬り、海野塚と称した。</p> <p>昭和52年(1977)市指定史跡</p>